

Toyama 富山ガラス Glass



かがやきに、息を吹き込む。



富山県推奨
とやまブランド

人と風土に、ストーリーがある
とやまブランド物語 VOL.21



富山県推奨
とやまブランド

厳正な審査を経て

富山県内外の有識者で構成する「富山県推奨とやまブランド」育成・認定委員会が、「高い品質と信頼性・安全性」、「オリジナリティ」、「富山らしさ」、「市場性」、「将来性」の5つの基準で品目を評価し、厳正な審査を経て、「富山県推奨とやまブランド」の認定品を決定しています。

富山県の極上の産品

「富山県推奨とやまブランド」は、魅力ある富山県産品の中でも、とくに自信を持って誇れる極上の産品です。豊かな自然と歴史、そこで培われた人々の知恵や文化を「とやまブランド」の魅力と結びつけ、「富山県」の地域イメージとして国内外に発信しています。

富山県推奨とやまブランド 「富山ガラス」認定事業者

一般財団法人富山市ガラス工芸センター
富山県富山市古沢152
富山ガラス工房：TEL.076-436-2600
体験受付：TEL.076-436-3322
<https://toyama-garasukobo.jp>



富山ガラス作家協会
<https://toyama-glassartists.com>



富山県知事政策局 広報課
TEL.076-444-3134
<https://www.toyama-brand.jp/>

アートがもてなす ガラスの街とやま。

「多彩な作品が 市民生活の身近に」

JR西日本高山線、あいの風とやま鉄道、そして北陸新幹線が乗り入れる富山駅。高架下に設けられた停留場には、富山地方鉄道の富山軌道線と富山港線も乗り入れる。

停留場ホームの壁を彩るのは、「トランジット・ライティングウォール」。帯状の色ガラスを幾層も重ね、背後の光を透過して葉脈や水面のような美しい表情を描きだす巨大なパブリックアートだ。駅構内コンコースでは、約800枚のガラスブロックを

埋め込んだ「フロアシャンデリア」が、天井からの光を反射して美しくきらめく。

富山軌道線の路面電車に乗ってまちなかへと移動すれば、世界のガラスアートの粋を集めた「富山市ガラス美術館」も待っている。

いずれも、ガラスの街とやまのシンボルとして市民生活に溶け込み、訪れた人々に富山ガラス(Toyama Glass)の魅力を発信している。

市街地の西側、緑豊かな呉羽丘陵の麓には、ガラスの街とやまの拠点「ガラスアートヒルズ富山」がある。ここには、富山ガラス造形研究所と富山ガラス工房を

中心に、ガラス関係の施設が集まっている。

富山ガラス工房内にある「創作工房」は、ガラス作家がレンタルで利用できる施設。工房内に足を踏み入れると、制作に取り組む作家たちの熱気が満ちていた。

熔解炉で溶かされたガラスがオレンジ色に輝く。それを吹き竿の先に巻き付け、吹き込む息と吹き竿を操る手の加減で形を整える。

様々な道具を巧みに駆使し、熔けたガラスを、イメージした造形に近づけていく。高温の炉の熱気を浴び、作家の額にも汗が光る。



熔解炉で1200℃に熱せられたガラスが目映い光を放つ。

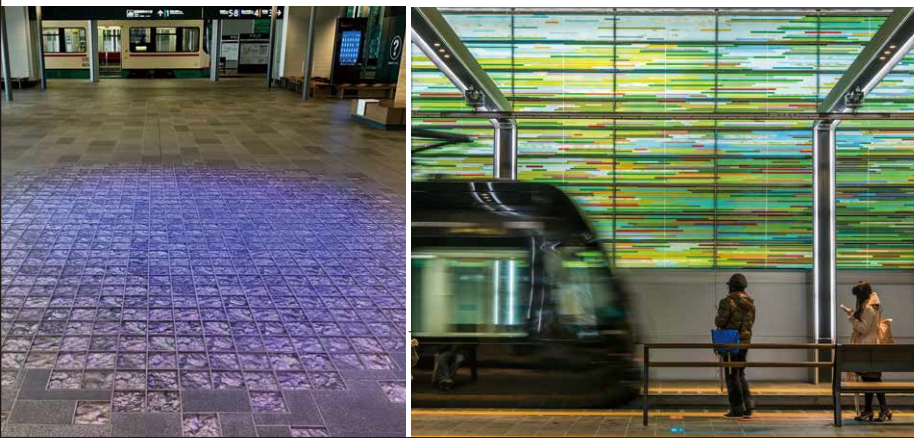
「人々が創り育てた 新しい市民文化」

「富山のガラスは、富山の人たちが自ら創り、育ててきた新しい市民文化です」。

こう話すのは、長年にわたってガラスの街とやまの取り組みに携わり、現在は富山ガラス工房でシニアアドバイザーを務める野田雄一さん。「明治から大正、昭和にかけて、富山には、富山のくすりの容器に用いるガラス瓶を製造する地場産業が栄えていました。ガラスの技が職人たちに継承されている時代があったのです」。

戦後、その歴史は一度は途絶えたが、1985年の富山市民大学ガラス工芸コース開設がきっかけとなり、富山に再びガラスの灯が甦ることとなった。

トランジット・ライティング・ウォール(右)とフロアシャンデリア





富山ガラス工房の「創作工房」。炉の熱気と作家たちの熱気が空間を満たす。

世界が注視する

ガラスアートの聖地



右／街道に面した安田さんのギャラリー。籬虫籠(すむしこ)越しの光がつくる陰影が作品の表情を際立たせる。
左／古い土蔵群に設けた工房で制作に集中する安田さん。(富山ガラス造形研究所第一期卒。2005年に岩瀬に「Taizo Glass Studio」を設立。国内外で多数の受賞を重ねる)※工房見学は不可

「市民大学では、多くの市民が初めてガラスの魅力に触れ、ガラス工芸への理解と愛着を深めました。市民に愛される新たなガラスの文化が誕生したのです」(野田さん)。
その動きに呼応して、富山市は人材育成と産業振興の両面でガラスの街とやまを目指すプロジェクトをスタートさせた。
本格的にガラスを学びたいという声に応え、1991年全国初の公立ガラスアート専門教育機関・富山ガラス造形研究所を開校。
1994年には、若手ガラス作家の自立支援とガラスの地場産業としての発展をうながす富山ガラス工房を開設する。
こうした取り組みが注目され、

ガラス作家を志す人々が全国から集まった。
富山ガラス造形研究所で技術と表現力を磨いた人々は、富山ガラス工房が提供するサポートや創作工房などの設備を活用し、プロ作家として自立を果たした。
開校から約30年間で、富山ガラス造形研究所の卒業生は約600名を数える。その大半がガラス作家、指導者として活躍中だ。
「国際的ガラスコンペの入賞者をはじめ、国内外で活躍する作家も数多く輩出しています。いまや



野田雄一さん。作家活動を続けながら、シニアアドバイザーとして後進育成にあたる。(富山ガラス工房前館長)

富山は、世界中から注目されるガラスアートの聖地ともいえる場所になっています」。
野田さんは誇らしげにそう語った。

【作家層の厚さが生む奥深いガラスの魅力】

県内に独立工房を持ち、富山の四季や風土に着想を得ながら創作活動続ける作家は約80名にのぼる。
アート性の高い作品から日常使いのできる器、装飾品まで、様々な分野のガラス作品が富山で生まれている。
かつて北前船交易で栄えた港町・富山市岩瀬に工房を持つ安田泰三さんも、そんなガラス作家のひとりだ。

歴史ある街並みをいかしたまちづくりに取り組む酒蔵との縁で岩瀬に移り住み、街道沿いの廻船問屋の古い土蔵内に工房を、その三軒隣の旧商家にギャラリー兼住居を置く。「ガラスを学ぼうと18歳で富山に来て、ずっとガラスの世界の中で試行錯誤を続けてきたのですが、岩瀬に住んで地域との絆ができたことで、表現の幅が広がったと感じています」。

宙吹き技法を中心に、レースガラスなどの多彩な技法を組み合わせ、繊細な装飾を施した作品づくりを続ける。
「岩瀬には陶芸、金工、木彫の工房が集まり、古民家空間をいかしたレストランやカフェなども生まれています。ジャンルの違う作家やプロたちとの交流で新鮮な刺激とヒントを貰っています」。



上/スタジアム形式の見学席を持つ「第2工房」は、一般向けの吹きガラス体験が人気。この日は、富山市内の小学生が卒業記念のペーパーウェイトづくりに挑戦していた。下/富山ガラス工房「ショップギャラリー」。インテリアデザイナーの近藤康夫氏が空間演出を手がけた。

ガラスの向こうに

息づかいが見える。

富山県内に独立工房を構える作家たちでつくる富山ガラス作家協会は、技法や表現力を高める研鑽交流を行い、グループ展などの機会を通して富山のガラス文化を発信している。

「作家層の厚みと、つねに新しいものにチャレンジする自由な創作活動が富山ガラスの魅力につながっていると思います」（安田さん）。

「ガラスを通して感性を共有する」

富山ガラス工房では、デザイナーや異素材作家とのコラボレーション、内外の著名作家を招いたワークショップなどを通して作家たちの創作意欲を喚起し、作品づく

りを支援してきた。同工房では独自の色ガラス素材の開発にも取り組む。

「コシヒメイ」の成分を調査した「越翡翠」、富山大学との共同研究から生まれた「越碧」と「越琥珀」。

この3色に紫苑色と青磁色の翡翠硝子を加えた5彩を「富山曼荼羅彩」として作家らに提供。富山生まれの色彩をいかしたオリジナル作品が生まれている。

富山ガラスの販路拡大も、同工房の重要ミッションだ。

工房内ショップやオンラインショップで作品紹介に努めるとともに、百貨店や国内外のクラフトフェアへの出展で新たな販売チャンネルづくりを注ぐ。2019年からは、日本橋

富山曼荼羅彩を用い、富山湾の深海と星空をイメージした作品「天蒼(てんそう)」シリーズ。光の加減によって様々な表情を見せてくれるのもガラス造形の魅力だ。



三越本店と協働で、富山ガラスの作家たちの感性を生かしたラグジュアリーブランド「富山アイコニック」の開発がスタートした。

富山アイコニックは、富山のガラス作家たちが、統一テーマのもとで共創するハンドメイドのプロダクト。

基本となる世界観はひとつだが、作家一人ひとりの価値観や手仕事の微妙な差異が、個々の作品にオンリーワンの表情を生み、工業製品にはない上質な味わいを描きだしている。

アートマネジメントを担当する富山ガラス工房の永井

龍五郎さんは話す。

「手にした人が、ガラスというモノではなく、そこに込められた情緒的価値を共有し、その感性を日々の暮らしを豊かに彩ることに役立てる……そんなブランドを志向しています」。

富山の自然をテーマとした第一期「ソリッドボトム」シリーズの好評を受けて、2023年2月には、第二期となる「輪花(Rinka)」シリーズが登場した。花卉を想わせる造形が、自然界の調和とゆらぎを感じさせるアイテムだ。

「このシリーズは、用途や利用シーンを限定していません。使い手の方が、使いみちを自由にイメージし、一緒に完成させていっただけだったらうれしいですね」。(永井さん)

【関連施設】



世界を代表する現代ガラス作家の作品を集める。「グラス・アート・ガーデン」にはアメリカのガラス彫刻家デイル・チフォーリ氏が手がけた空間美術を展示。館内ミュージアムショップにはガラス関連アイテムが多彩に揃う。

富山市ガラス美術館

〒富山市西町5番1号
富山軌道線「西町」停留場より徒歩約1分
TEL 076-461-3100
9:30~18:00(金・土は20:00)
第1・3水曜日、年末年始
https://toyama-glass-art-museum.jp/

message

意欲ある作家たちの姿に刺激

こんどうやすお
近藤康夫さん (インテリアデザイナー)



富山ガラス工房と出会い、もう20年以上の月日が流れました。当初気になったのは吹きガラスに代表される工芸的な作品の数々です。それらは富山ガラスの世界観を創り出して来たと思います。また、私がデザイナーとして意欲を掻き立てられるのは、富山ガラスの持つマテリアルとしての表情、翡翠などの富山曼荼羅彩の輝きや地域とのコラボレーション、そして作家さんの新たな挑戦です。一つの作品にとどまらない新たな魅力創りが富山ガラスの未来に繋がっていくと思います。